

隨想

創刊15周年によせて



元・津高 和一

夢の

まち創りを

古林 喜楽

△神戸大学元学長▽



そもそも私と「神戸っ子」との出会いであるが、あれからもう十五周年とは全く感無量である。

そのころは、新聞会館・国際会館・市庁舎もできたてホヤホヤであつた。もちろん六甲山トンネル・さんちか・高速道路・さんブルザ・二十六階のノップビル・ポートアイランド・文化ホールもなかつた。神戸大学もまだ六甲台に集まつていなかつた。いわんや新幹線など思いもよばなかつた。須磨のきれいな海で存分に泳げたし、魚も面白いほど釣れた。こう思ふこしてくるとの十五年の間に神戸も随分変つたものである。

神戸っ子創刊のころ、五十嵐娘が來訪。原稿をたのまれたのが、

「神戸っ子」が、酒祭りや阿波踊りへと神戸っ子連でくりだしたり、神戸祭りのもとになつたカーニバルを企画したり、イレブンPMへ出演したりして、私たちを慰めてくれたが、その間海はドブになつてしまふし、きな臭い煙が空をおおい、公害の続出で、泳ぐどころか魚が一時食べられなくなつた。夢のかけ橋一辺倒で道路は穴だらけ。深夜わが家へ帰るとき、上をむいて歩こうよどころか、下を向いて歩かなければ足を挫いてしまうようなさまになつた。

幸い神戸で初めて宮崎革新市政が出現し、それから神戸も次第に

変ってきた。今では上を向いて歩けるし、須磨でも再び泳げるようになった。道路には樹木が続々と植えられ、芝生も増えた。本格的歌舞伎も見られるし、オペラも聞けるようになった。

ここで一つこの勢いに乗つて、われわれの神戸を近代都市のモデル、欲をいえばハーラーダイスクのようならにしてもらえないものかと思う。例えば空地や火災で焼けたあとは全部公園に変えてしまった。アパートやマンションの方がよいという人たちのために高層ビルを建てて移つてもらい、あと地を片づけながら全部公園にしてしまう。神戸は地震の心配がないから高層ビルをドンドン建てる。公園だけの中に住んでいれば庭などいらない。日照権の問題も消えてしまう。神戸は山が多いから割が緑だというけれども、あとの三割の市街地の大半も、公園の緑にしてしまう。海岸は数々にわたり車も入れる巾広い防波堤にしそこを太公望の釣り場にする。須磨一帯の海岸は白砂青松をとりもどし、沖の防波堤で汚れた海水をせきとめ、パイプ・ラインで明石海峡の深底のきれいな海水を導人する。

「神戸っ子」が十五年もと申しては、お叱りをうけるでしょうが成長しつづけた努力に感心しています。昔ばなしになりますが

チャンバレー、あちらではゴルフの古い古、プールで泳いでいるものもあり、夏は木蔭でビールのジョッキを傾けているものもあるば、舞台の演奏にあわせて芝生の上でダンスに興ずるものもある。

公園の樹々には小鳥がさえずりリスが走りぬけてゆく。四季の草花が次から次へと咲きみだれ、再度山ではないけれども、一度神戸を訪れるふたたび神戸へ舞いもどりたくなるような夢のまち創りに、われわれ市民も腕をくんで協力する、というようなことにならないものであろうか。

時々考えるのですが、神戸の街は歴史的にいつ城下町ではなく、漁村が港の町として発展し、船乗りさんは神戸港の水がとても喜こられたようです。太平洋戦争以前のことですが、アメリカ航路や欧州航路、そして上海航路など、大小の豪華な客船が毎日威勢よく出入りするごとに波止場を埋めた人の波と歓呼の声がなつかしく思い出され、コスマボリタン的な街の風情が神戸のシンボルでした。それが神戸のよさであり、また同時にもろさでもあったのでしよう。



神戸のシンボル コスマボリタン的な街

滝川 勝二

（トヨタ自動車株式会社社長）

「神戸っ子」が十五年もと申しては、お叱りをうけるでしょうが成長しつづけた努力に感心しています。昔ばなしになりますが

小泉君兄妹がおかあさんに連れられて突然訪ねてくださった時に何の知識もない私として、そんなことはやめなさいとか、また大いにやりなさいとかお話しする自信はありませんでしたが、子供たちを希望する道へ進ませてやりたいとがあるなら相談相手になろうと思つたことでした。

自慢していた天然の良港も、今はポートアイランドや六甲埠頭で補強しなければならない時代になりましたが、神戸と言えばやはり港に特徴があるので、港を中心にして街の発展を考えるのが本筋だと思います。昔の港は人と貨物の発着場所だったのに、今の神

戸は貨物だけの動きで、人は全部、羽田空港とすることですから、戸の将来を考えると、このへんに決定的な運命を暗示しているような気がします。何とか世界中の人たちがKOBIEの名を忘れないよう努力しなければなりません。

「神戸は気候がよい。食べ物もおいしいし、ショッピングも楽しく景色も素晴らしい。しかし肝心のビジネスが今一つだ」という支店長さん達も少なくありません。

ファッショントリブルーが合言葉になっていますが、これだけで神戸の経済力が浮上するとは限りません。地形からいつても人口百八十万くらいを目指すマスタートップランから新しい神戸のバイタリティーを期待できるのでしょうか。やはり神戸は港の発展、できるこどなら貨物と併行して人の発着場所であつて欲しいと思います。

話は変わりますが、日曜日の午後、炬燵にあたって原稿を書きながらテレビを見ていて、歌番組が多いのに神戸を歌つてヒットした曲はあまり無いのだといいます。が、本当でしょうか。もしかしたことだら今年の神戸っ子は大いに奮闘して神戸を歌つたヒットソングを世に出しませんか。

宮崎市長さんも大変歌がお上手ですから理解して協力してくださるでしょう。

今こそ 飛躍する時 KOBIE

竹馬 準之助

（竹馬産業株式会社社長）



もう十五年になりますか。失礼ながら創刊号はともかく、何号まで続ければのだろうかと頭に浮んだ。というのも、神戸の市民の声を、姿を、この一冊にまとめ、月刊誌として継続するにはそれなりの企画と豊富な資料が必要であるはずだ。神戸というところは、比較的ネタの乏しいところ。ことに神戸っ子は初物食いで飽きっぽい。これは創刊当時のいつわらざる私の印象であったように記憶している。

すでにその頃、神戸の商店を歩けば、これといった老舗には必ず「神戸っ子」が置いてある。私は街を歩きながらフト目頭が熱くなつたことを覚えていた。名も無い市井の一市民がこの「神戸っ子」と取組んで十五年。私はごく限られた一部の人間ではあるが、私以外に、未知の、この小説に限りなき理解と協力をされたであろう

タントに出版するにはそれ相当の資金も必要なはずだ。失礼ながら特別な後援者でもあるのかなと思つてもみたが、それもない。全く小泉一家の大事業である。果せるかな、資金シートの時期がきた。

私のところへ一時融資の申し出があつて、百万に満たない金子である。当然くるべきものがきたということである。この種の事業には宿命というか、しかも誰もが一度は通り抜けねばならぬ道でもある。——私は考えた。神戸にこのような、神戸の生んだ私物、があつてもよいのではないか。——気持ちよく用立してるのである。この時が「神戸っ子」の一番苦しい時だったのであろう。その後二年位かかったのだろうか、全額返済いただいた。私はこの時点で「神戸っ子」はもう大丈夫だ、神戸に根を下した、本当に良かつたなどいう実感を受けた。

すでにその頃、神戸の商店を歩けば、これといった老舗には必ず「神戸っ子」が置いてある。私は街を歩きながらフト目頭が熱くなつたことを覚えていた。名も無い市井の一市民がこの「神戸っ子」と取組んで十五年。私はごく限られた一部の人間ではあるが、私以外に、未知の、この小説に限りなき理解と協力をされたであろう

たくさんの方々に心からお礼を申しあげたい気持ちで一杯である。

ただここで「神戸っ子」に申し上げたいことは、この誌も一つの機を迎えたのではないだろうか、ということ。これからが本当の第二の「神戸っ子」というものを考える時期がきているよう思う。神戸を愛する人々によって今後の「神戸っ子」の歩み方にについての意見をまとめ、さらに飛躍する「神戸っ子」の誕生を心からお祈りする。

15年 共に歩んで 神戸と

吉川 進



（元月堂社長）

早いのにとまどうのであり、またよくここまで続けてきたものだと感心するのである。

私と小泉君との出会いは、それ以前に逆のほう。確か、最初に目に映った小泉君の姿は紺の着物に袴姿であり、場所は講会の舞台の上であった。小泉君は当時、関学大の講曲部の重鎮であったと思う。私はたまたま講曲を習い始めた。師匠が同じくした因縁で、師は能楽一家として斯界に重きをなす藤井久雄先生であった。

雑誌の編集発行は至難の業であることは門外漢の私も聞かされていたことであった。しかし、いろいろおつき合いしている間にこの男ならやり遂げるのではないかと思った。相談を受けて、及ばずながら、微力ではあるが、協力させていただいたのである。私の予想も天気予報よりやや正確であったことを有難く思う。

しかし、当事者としては、そんな気ことをいつおれないだ

る。先立つ資金を始めとして、

スタッフの確保、編集の苦労、渉

外関係など多くの壁をよく乗り越

えてきたものと思う。妹さんは

じめ、スタッフ一同が小泉君を助

けて努力されたことは想像にかた

くない。「神戸っ子」という誌名

を聞いた時も、ユニークな名称で

はあるが、ちょっと軽る過ぎない

かと懸念したが、「五年の年功で

あろう、板についてしまった。

當時、成功した業界小冊子「あ

まから」があつた。私は商売柄、

こらない、それでいて何時の間にか味の世界に引き込まれる楽しい

品格のあるものであった。ずいぶん好評を博していた。

小泉君の編集方針はどこにあつたか。雑誌名の通り神戸をテーマとして文化、芸術、スポーツ、経

済、商業に至るまで巾広い範囲にわたって取材し、今までになかつた未開の境地を開拓したことはな

かなか立派であったと思う。神戸を愛し誇りに思う熱心な執筆者の

先生方が大いに協力されたことも成功の一因であろう。

根底はあくまで「コウベ」であ

る。他の都市にみられない「コウベ」の良さを掘り下げ、神戸を見直し、将来の神戸の發展にこの小

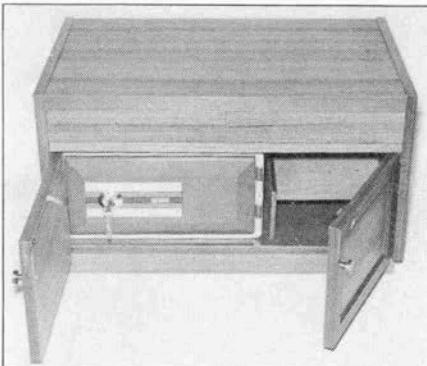
冊子が役立つことを願うのも私ひとりではない。また地理的にも文

化的にも、商業的にも過去の神戸を探求し、現状を直視し、未来に夢を描く、神戸の姿をあらゆる面

からとらえ、総合した誌面を創り出していくいただきたいと思う。

落ち着いたなかに、地味な、渋さのなかにもファッショントリ市神戸が躍り出る、神戸に根を下ろした雑誌にしていただきたい。

刀劍 古美術 書画 骨董



宝石、美術品の保管に――

軽量小型耐火金庫

¥ 57,000

(防犯用電子ブザー装置付)

鑑定 買入 刀剣研磨その他工作 一ヶ月仕上

是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀
古
美
骨

元町美術
骨董

〒650

TEL 078-351-0081

マーガレット



ゴーフルをはじめ夙月堂の七つの味を
一缶にせいぞろいさせた
楽しい詰合せです。

● A … ¥2000 ● B … ¥3000 ● C … ¥5000

(ゴーフル、ブティーゴーフル、チョコレートバビヨット
(コウベピア、レインボーキャンデー、サブレー)



神戸夙月堂

神戸市生田区元町通り3丁目195

TEL.(078)391-2412・321-5555

河上丈太郎と阪本勝

関西学院と神戸 △2▽――

久山 康 △関西学院院長▽

え・石阪 春生



日本社会党の委員長であった河上丈太郎先生は神戸市民の社会的良識の高さを示すシンボルとして、幾度も最高点で衆議院選挙に当選された。私は先生に親しくして頂いていたので、選挙の応援演説に出たこともあった。どの会場でも若い聴衆のほかに年取った労働者や庶民の人々が詰めかけ

ていて、先生に尊敬と親愛のこもった眼を向けていた。その度に私は神戸の庶民に直結した政治家だという強い印象を受けたのである。純潔な理想主義者であった先生の選挙は、全く文字通りの公明選挙で、法定の選挙費用を下廻るという話も聞いたが、最高点で当選された夜、私がお祝いに上ったところ、先生は関西学院での教え子の経営する中華料理店の二階で、数人の教え子に囲まれ、

奥さんと一緒にジースを前に坐つておられた。私は田舎の村委会員の当選風景でももつとも盛大的にと驚いたことがあった。しかし先生は東京の出身であり、根っからの江戸っ子であるのになぜ神戸っ子になつたのか。それは関西学院があつたからである。

河上先生は大正四年に東大の法学部を出られて同七年に二十九才で関西学院に赴任され、十年間高等学部で教鞭を取られた。先生は自らの精神的系譜を語られて、「私が今日の自分をつくることができたのは、三人の人のおかげだ。内村鑑三先生から信仰を、新渡部稻造先生から人格主義の教えを、高野岩三郎先生から社会科学の眼を、それぞれさしつけられた。だが、だから一番感化を受

けたかといえば、それはやはりオヤジからだつた」と言われたことがあるが、尊父というの東京芝の材木商で、毎朝芝公園の木立の中で一時間余り聖書を読み祈りをするという篤信の人であつた。こういう生き立ちの人であったので、国立の学校にない学院のキリスト教による人間教育が、先生の情熱を触発し、学生への熱愛となつたのである。

しかも先生は授業のかたわら賀川豊彦先生たちによつて設立された大阪労働学校に奉仕され、また大山郁夫氏の政治研究会といふ無産政党準備会の神戸支部長になられ、次第に社会運動に接近してゆかれたのである。そして昭和二年には学院を辞任して神戸で弁護士を開業され、日本労農党に入党して翌三年第一回の普通選挙には神戸から立候補して見事に当選された。それ以来逝去される昭和四十年まで神戸は先生の選挙区であり、第二学院の高等学部は大正十年に文学部と高等商業

部となり、河上先生は文学部の社会科で教鞭を取られたのであるが、そこには新明正道氏のような学究とともに、松沢兼人氏のようにやがて河上先生の後を追つて政界に進出した人も教鞭を取つていて、社会的・政治的関心も高揚していたのである。そういう状況の中に阪本勝氏が昭和二年に毎日新聞を退社して、社会学科の講師として赴任して来たのである。そして阪本氏の生涯を決する出逢が起つた。それは河上、賀川両先生との出逢であつた。



1929年、阪本勝氏が描いた河上丈太郎氏の肖像画（油絵） 原画は現在河上民雄氏が所蔵

「この美しく静かな学園で、私は世にも不思議な人物にめぐりあつたのである。その名を河上丈太郎という。歳は三十七、八の若い教授であつた。どことなく飘々としていて口数も少ないが、妙に学生の信望を集めていた。」こう阪本氏は『流水の記』で回顧している。この河上先生から県会議員選挙への立候補を勧められ、さらに学院に関係の深かつた賀川豊彦先生に勧められて決意するのである。「学園のボプラがゴッホの絵のように天にむかって燃えあがっていたある日」、賀川先生はボプラ並木の下を散歩しながら「生きた社会の本を読めよ」と勧められ、遂に日本労農党から立候補し、賀川、河上両氏の応援によつて若冠七才の阪本氏は、神戸市から最高点で当選するのである。こうして県会議員から衆議院議員、尼崎市長、兵庫県知事と阪本氏の政界遍歴が始まるのである。しかも阪本氏は第四代のベーツ院長を尊敬し、「世の中にはかくの如き堂々たる風格があるのかと思つて」、自分の偶像となつたと語り、また「ベーツ先生のいた関西学院の芝生を歩いて来るといい気持になる。行つて来るとまた元気が出て、県庁で頑張れるんだ」とも語つたのである。

南米の旅

新谷秀夫 △彫刻家△

秘宝や食糧を求めるスペイン人の探險家たちにとって黄金峠としての目標となり、古いメキシコの文化やペルーの文化が侵略されることになってしまったが、そのため土俗的な古い文化が早くから世界に紹介され、別に意味での新しい文化の開花をみたということもうなづけるのである。ラテンアメリカは、主としてスペイン人やポルトガル人など、ラテン系の民族によって支配され、アメリカ・インディアンと結ばれて生れた混血と、その混合文化とによって一つの文化圏として成形された大陸である。だが、北米・中米・南米を包含したこの新大陸は、必ずしも統一された文化圏ではなく、低地と高地、狭い地域と広大な面積の気候が独自の文化を生み、比較的人口の密集したメキシコとアンデス地方のマヤとインカの文明に開花を見たのであるが、その地域的な風土に住む人種の生活文化がはなはだしく異なるのがまず私たちにとって魅力なのである。

一昨年の暮には待望のメキシコ行きの念願がかなつたが、その機会を利用して、サンパウロに住む若林さんとニューヨークの竹田さん、両家を突然に訪問して驚かせ

る計画であったがマヤ文明の魅力に引かれてしまい、帰国がせまる間際まで訪ね巡り、ついにその計画は断念せざるを得なくなってしまった。今回のブラジル行きでは元気で明るい若林夫妻に会うことができ、一昨年の目的は果たすことができたが、帰途、アンデス地方のインカ文明に触れ、またまたニューヨークの竹田さんを訪れる機会を失つてしまつたのである。今年の一月十五日に帰国してみると、竹田さんから、今度こそ帰途に立ち寄るようとに、期待の手紙が届いており、何とか日程をきりつめてでも訪問すればよかつたと、今となつては多少後悔の念にかられているが、まだカリブとアマゾンを残しているので、次のニューヨークが楽しみである。

ところで、今回のブラジル行きは、その若林さんから十五年ぶりに神戸で個展を開催したいとの手紙を受けとつたのがキッカケとなり、その打ち合せの文面に神戸とリオ・デ・ジャネイロとは姉妹都市の関係でありながら今まで文化の交流が全くなかつたことが日系市民のいいで話題になり、せつかく私がブラジルへ行くのだから



ブラジルの新興都市、首都ブラジリアの教会。ふきぬけ建築様式を取り入れ、地上には屋根だけが見え、地下の入口のほうへ向う人たちが見える。

という依頼があつたのである。

神戸市からの使節として派遣されるのではなく、民間としての任務ではあるが、姉妹都市間のキズナを結ぶ一役となるので、まず宮崎神戸市長のメッセージと、神戸芸文の小倉会長からリオ市写真連盟でのメッセージ、

今後の文化交流の提携と協力を期してブラジル最大の新聞、ジャーナル・ド・ブラジルには神戸新聞光田社長のメッセージをそれぞれ持參ということになり、そして文化交流が目的であることからメッセージだけではなく、作品を持ついかねばならないが、彫刻にしろ絵画、工芸品にしろ運送費やその手間にかなりのエネルギーが費やされるので、比較的手軽に持つて行ける写真作品とし神戸芸文の協力を得て、作品の応募者は神戸市在住に限つて公募した写真作品四十三点を持參し、現地で親善を目的とした写真展開催。それに市の公園部長の計らいで「日本産の木の種」を持參することになったが、これはその種から芽が出て、育ち、そして茂っていくことから、同じよう両市間の文化の芽が出、育ち、茂つていくことに願いをかけたのである。そんなことからブラジルでは観光どころではない忙しさになってしまった。

その交流に関しての任を終えて、次の目的地のスペイン的な町であるアルゼンチンの首都、ブエノスアイレスに移動した。まず音に聞こえたアルゼンチンタンゴの発祥の地、カミニートを訪れる。ここはすでに廃港となつてゐるが、さびれかけたわびしい町並から聞こえてくるリズム、それがまたタンゴ発祥地の風情をかき立ててくれるのであつた。そこから期待のインディオの国、ボリビアの首都ラ・パスに着く。ここは標高四千尺の高地である。空から突然に慣れない環境に飛び込んだのだから無理もないが、酸素の少ない空気のため、まず息苦しく行動がにぶる。頭痛がはげしく食欲もない。どこを見ても帽子をかぶった珍しいインディオの女性が歩いている。だが興味どころではなく翌日も悪条件に慣れるためには一日中寝るより仕方がなかつた。翌朝、目が醒めて

コカティで喉をうるおし、栄養を取るためにスープを頼んだ。熱くないスープである。酸素不足のため沸とう点の関係から熱くならないそうである。そういうえば昨夜の風呂もぬるい湯であった。

ラ・パスからペルーのクスコへ向うのには、チチカカ湖を越えねばならない。湖を横切つて一直線に渡つて行く船では十時間、湖の周囲を走るバスを利用すれば二五時間、船で渡つたところで巨大な湖、四方八方水ばかりでは面白くない。時間はかかるとしてもバスに乗つてアンデスの地方の風物を見ながらの旅のほうがはるかに楽しいであろうとバスに乗り込んだ。ほとんど舗装されていない路を走る。五日ほど前は夏であったが、アンデスの高地では雪が積つている。ペークから程遠くない地点に「太陽の門」の遺跡が謎の文字を刻んでインカ文明を誇っていた。ますますインカ帝国の奥深くに侵入していく自分自身に震えるような興奮を覚えた。長時間の乗物がさほど苦にならないうちに待望のインカ帝国時代に首都であった古都にたどりついた。ここも高度三千四百メートルである。古典のたたずまいを残した静かな町であるがやはりスペイン風な田舎町の風情がある。この町から汽車で四時間、高度三千六百尺の山の頂上に残された石の文化的マチュピチュの遺跡を訪ねるが、期待通りの素晴しさに息苦しいもの忘れてしまつていた。

次はいよいよアンデス最後の都リマである。スペイン人の略奪から脱がれた黄金のコレクションを誇る黄金美術館、それに個人の蒐集と发掘品でしられた天野美術館やインカの歴史と工芸品を觀せるナショナル美術館、市の郊外のプレ・インカの遺跡など古代インカの文明を知る宝庫といえる町である。

憚しい旅では到底インカの文化を探ぐることは出来ないが、メキシコのトルテカ、アステカの古代マヤの文明とは異質ではあるが、土俗的なその魅力にひかれ、日数が足りないのが惜しまれてならなかつた。



ファッショントリニティ都市は ショッピングエリアから

増本

直美

（一九七四年度代表クリーン神戸）

坂野

通夫

（ファミリア社長）

岸野

利男

（シンワ洋装店社長）

渡辺

利武

（マキシム社長）

吉岡

潔

（ヨシオカ社長）

小林

新二

（元町バザー社長）

★ウインドーショッピングができる町に

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、『神戸らしさ』の文化の発掘であった。文化を即生活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこそ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに色どり、楽しくしていくことは、まさに『文化開発』そのものではなかろうか。

『ファッショントリニティ都市・神戸』はそのような環境のなかで息づいている。

そこで、『ファッショントリニティ都市・神戸』の本質的な理解——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は、神戸のショッピング・エリア——さんちかタウン、センター街、トーアロード、元町、元町——の現状の問題点と今後の展望などを語る内容である。

小林 そうですね。本当に帶だけという感じで、憩いの場が何一つないというわけですね。



坂野通夫さん



増本直美さん

が……。

坂野 そのへんのところを小林さんの方で音頭をとつていただけたら、我々も協力いたしますから……。今まで夕方に来られた方は、どうにも仕様がないですね。小林 外国のようにワインドーを明るくしてそれをある程度の時間までやりたいですね。新しくできた「ヌーベル・サノヘ」がそういう風にやっていますね。大丸前では「永田良介商店」がやっていますし、だんだんとそうならないといけないですね。

坂野 もう少し、それがまとまるといいんですけれどね。そうなると旅行者でも夜、ホテルでウロウロしているんじゃなくて外に出ますからね。

吉岡 ウィンドーショッピングだけでも次の買物につながるわけですから。今度のセンター街の新しい建築では、そういうことは加味されているんですか。

岸野 町ぐるみでそういうことをするのは無理なんですよ。サンプラザもセンタープラザもできていますが、その中では、「ベニヤ・エルベ」がシャツターを下ろさず

遅くまで灯りをつけていますが、本当にごく一部ですね。まあ、それを強要するわけにもいきませんし……。それに、イメージづくりという点でいうなら、サンプラザに

小林 うちの商店街はそれを課題にしているんですけど……。夜でもワインドーショッピングできるように、せめて八時か九時位まで照明をつけていいと思うのです

吉岡 三軒でも五軒でも、ショーウィンドーを夜もオープンにし出すと、またお隣り、またお隣りという具合に盛り上って行くんじゃないでしょうか。
坂野 最初はダメかも知れませんが、ワインドーコン

坂野 まず三軒でも五軒でも、ショーウィンドーを夜もオープンにし出すと、またお隣り、またお隣りという具合に盛り上って行くんじゃないでしょうか。



渡辺利武さん



岸野利男さん

クールでもやつて参加していただくようにするとか、具体的にやるには、そういうことから始める仕方ないよう思いますね。

小林 そういえば、昭和三十年頃まで、ディスプレイコンテストが毎年あります。私とこも参加して一生懸命やりましたよ。

増本 ウィンドが楽しくなるつていうのはとてもうれしいことです。時々大阪へ行つたりもするのですが、地元のせいか、やっぱり神戸の方が歩きやすいように思うんです。でも先ほどのお話にもありました、東西に帶状になって集まる所がないように思いますが。昨年の今頃ですが、ニースのお祭りでパリへ行つたのですが、あちらは凱旋門を中心に放射線状になつていて、歩いていても、とても楽しかったことを覚えています。いずれ

にしても、私なんかの買物は、ウインドー・ショッピングが多いです。ウインドーが楽しくなるのは、本当にうれしいですね。

坂野 実はこの間栄町を通りましたら、えらく町幅が広いなと思つたんですよ。なんかすつきりしていると思ったら両側の電柱がないんですね。ですからやつぱり、ショッピングエリアとしては、将来、配電設備が地下に入らないとエリアとしての形態をなさないとと思うのですが……。外国は、写真で見てもほとんど電柱がないですからね。

小林 電柱は向こうにはないですね。

坂野 電柱があるからそこに看板をつけるんです。

岸野 その上それを有料にまでしたりしていますからね。そういう点ではさんちかの「インフォメーションこうべ」ですか、ああいう場所を思い切つて、あのような形にしたつていうのはりつけですね。

渡辺 トアロードもだいぶ店がまとまつて来て、いろいろな計画もあると聞いていますが、電柱は困りますね。神戸のメインであるトアロードからでもうまくなくすることができれば結構なことだと思います。それとトアロードの場合、車が両側に止まつてしまつて、ウインドーを見ていただく場合に支障があるので、これもうまく整理できるといいでですね。

吉岡 これから新しくできる建物は、だんだんと屋並みもそろつて来ますが、今のところではその屋並みに多少デコボコがありますから、美観という点では、外国の町なんかと比べますと大部違っていますね。

増本 センター街も工事がすすめられて、センター・プラザのようなビルの中にお店が入つてしまふと、お店の個性というものが失われてしまうような気がするんです。もちろん、そのお店で売っている商品に個性があるのだ



小林 新二さん



吉岡 潔さん

小林 ビルもいいけれど、一軒店舗もそれなりにいいわけですよ。

坂野 ホツとするんです。

小林 自分が元町に住んでいて勝手なようですが、元町に帰るとヤレヤレだと思いますよ。一軒一軒顔があるでしょう。コンクリートと鉄筋だけが店じゃないんだから。

吉岡 北野町界隈の店にしても、売っている商品というのは特に目立ったものではないと思いますが、周囲の環境が、例えば坂があつて緑があつてということで、若い人達に神戸らしさを感じさせるんでしようね。

岸野 さんちかの「インフォーメーションこうべ」もかなり人気を呼んでいるようですが、商店街でああいう場所を持てたらいいとは思うのですが。現状でも、都市計画とかで道幅を広くするために二割五分も販売面積を削減されるということで、これは大変なことなんですよ。

今度できるセンターープラザ西のビルの七層は全部ショッピングエリアなんですね。となると、相当に神戸にお客様を引き込まないと、店はふえても消費人口があえないという風になってしまします。阪神間の消費人口を神戸に引きもどすためには、相当強力な吸引力がないといけない。まわりの商店街からは、しそうちゅう三宮過密化反対をいわれますが、しかし、神戸に客を引こうと思つたら三宮に何かポイントを作らないとどうにも仕方がないと思うんですよ。

渡辺 北野の方にもいろいろ新しくできるよう、山手の方方が開けてくるというのはトアロードとしては大変結構なことなんですが……。

小林 そうですね。やはり線だけでなく、点も必要になりますからね。

坂野 それと、これからは駐車場の問題が大きくなる作用てくると思うんですよ。最近元町の通行人がふえたというのは、裏に駐車できる場所があるからですよ。

小林 ちょうど三年前の調査と今年の調査では通行量が二倍になっていますよ。

岸野 それとセンター街が、今、改装工事していますか

らまとまりのないセンター街よりも元町の方に行くんでしようね。元来、センター街は買物がしやすいというところなんですけれど、神戸らしさという点では元町の方がずい分上でしよう。

坂野 これからは、神戸へ行つてそこのお店へ行かなきや買えないという品物を各店が用意しないとダメですね。センター街も元町も同じ品物を置いているといんじゃないでしょうかと思うんですよ。

岸野 やっぱりオリジナルなものを用意しないといけないわけですが、その意味で、神戸の有名店が大阪、京都、東京などに店を出すと、わざわざ神戸に来なくとも、それの所で買えることになるので、どうしても神戸に来て下さるお客様が減るのじやないかと思うんですよ。だから、神戸一本でやつていただきたいと思うわけなんですよ。東京や大阪でたくさん売れて、神戸の本店にその後残りが残るというじやあ神戸に客は引けませんよ。

渡辺 しかし、神戸のオリジナルといいますか、ヘッドというものは神戸にあるわけですから、他の地区に宣伝するという意味で外に出すことも必要なんですけどね。

★これからは変る、ショッピングゾーン

坂野 ザルツブルグは一度しか行つたことがないのですが、なんか宝物を搜すような感じで、露路の中にボツンと店が一軒あつたりして非常に楽しい。それと、ウインドーというものは店の顔ですから磨き上げてますよ。そして、肉屋にしてもチョコレート屋にしても絵になつてるんですよ。そのへんを見習つたらいいんじやないかと思ひますけれどね。

小林 ヨーロッパなんかでは、今までのショッピングエリアを度外視して、例えば原宿や六本木のようなもんなんですが、ハンブルグのアルスター湖の附近にお店ができる

ているんですよ。それが全部ファッショனの店なんですが、いわゆる今の乞食スタイルの物ばっかし売つていて、他にアンティックなものとか、手作りのネックレスなんかを置いていて、それはブレーメンにもありますし、昨年パンクーバーに行つた時も倉庫跡でできていましたね。れんがの倉庫跡をのままショッピングセンターにしてるんですよ。

吉岡 ジヤサンフランシスコの例の……。

小林ええ、例のウーズセンターですか。あそこも缶詰工場の跡を使って、非常に成功していますね。そういうふうに、今後の街づくりというものは既成の街のなか以外に発展があるんじやないかと思うわけですよ。ですから型にはまらない、倉庫跡なんかを利用することが若い人に非常にうけるんですよ。そういうものが、メリケン波止場なんかにできたっておかしくないわけです。外国ではあちこちにできていますよ。ハワイにもできて名物になっています。暗い所に裸電球をつけたような感じで、そこにも毛皮を扱う店があつたりして楽しい造りをしています。ですから、ビルを建てて商店街を作らないと商店街にならないという既成のものから脱したものが、あちらではすでに考えられているわけなんですよ。

まあ、日本でのそういうものが、原宿とか六本木なんかかも知れませんが、既成の街でない所にできるということですね。

吉岡 人がたくさん集まつた所で買物をするよりも、そういう所で買物をした方が楽しいでしようけれど、ただ、楽しいだけではなく採算が合うかどうかが問題ですね。

岸野 向こうには趣味の店というか、これで採算が合っているのかと思うような感じのお店があるんですよ。

渡辺 採算面というのがやはり基本になるのはいうまでもないのでですが、品物だけを対象としたショッピングに加えて、散歩しながらとか、緑の中とか、れんがの舗道とかいうような街のムードといったものが要求されてい

岸野 外国はどこを歩いても楽しさがありますけれど、日本はソロバン勘定が先に出て来ますね。

坂野 その楽しさということで、以前から考へているんですけれど、神戸というは造船と商館と海運が中心になつて发展して來たと思うんですが、そういう関係で古くから使つていたような物を集めて、何か記念館のようなものができたら人が見に来るんじやないかと思つてましたんですけど……。

小林 木曜クラブが一つのキャンペーンとして、朝日会館から三菱銀行の前までちよつとしたゾーンを作るんですよ。リストの置物を置いたりして……。それで次の次はどうしようかということで、元町一丁目と大丸を結んで、メリケン波止場あたりまでを何とかしようと考えているんです。いよいよ唐人町（南京町）もできることになりましたし、それのつながりとしてメリケン波止場への散歩道を考えているわけなんですよ。昔、私たちはメリケン波止場に涼みによく行つたもんですよ。ですからそこはいい場所なんですよ。放つておくにはもつたいないですからね。物を売ることだけがファッショニージやないんですよ。

岸野 物を賣ることだけというのは味けないですからね。

小林 ファッショナブルなものを賣るというのもファッショングですけど、地域がファッショナブルでなければならないし、住む人もファッショングがなければいけないということですよ。ですから、神戸が割合そういう性格を持つ街だけにそれをうまく活用することは販売にもつながりますし、商品のイメージにも反映させることができると思いますね。

岸野 神戸の匂いというのが、だんだんと消えて行くような気がしますね。

吉岡 情感の問題ですねえ。

岸野 なんか殺伐としていますねえ。もう少しうるおいが持てませんかねえ。

渡辺 神戸という町は、全国的に興味を持たれている町だと思うので、何としても、外からせいぜい来てもらえるように持つていかなければいけないと思いますね。

★うるおいのあるショッピングエリアを

増本 商店街というのは、ただ単に買物だけをする所じゃないで、人と人の触れ合いというか、もつと人間的なものを求めて行くと思うんですよ。例えば、自分一人で寂しい時なんか、街へ出て大勢の人がいるんだというようなことで……。ですから経営の方は赤字が出ないようにしなければと第一に思われるでしょうが、私達の側からすると、やっぱり憩いのある商店街というのを望みますね。まわりを見てもビルばかりというのではなくて、緑もあつたり、さんちかの「インフォメーションこうべ」みたいなのがもつとたくさんできると楽しくなるんじゃないかなしらと思ひます。

岸野 私達もそういうことを望んでいるわけなんですけれど、実現することは非常に難しいですね。

小林 もともと戦前の元町という所はショッピングするところじやなかつたんですよ。いい物を着たら元町へ着て出たいとか、インド人がサリーで歩いたり、牛みたいな大きな犬を連れた英國人が、一丁目で水割りを一杯飲んでは六丁目まで行つて帰つて来て、また一杯飲むといふやうだったんですよ。そういう人達が元町を歩いたんですよ。元町を一日に一度歩かないとい眠れないという人がいたんですよ。本当にファッショングの町だったと思うんですよ。外國のいいものが手に入り、一度これを身につけてどこを歩こうかといったら、元町を歩いたんですよ。一つの舞台だったんですね。バーバリーのコートを買つたら寒い冬でもそれを着て歩いたり、一つの見せ場、神戸のファッショングのステージだったんですよ。ところが今はただ、ファッショングのもの売る町になつてしまつたんです。

渡辺 神戸に来たら楽しいんだというようなものが欲しいですね。

吉岡 ショッピングされるお客様とお店の人が立ち話をしている光景なんかまずないですよ。もう買物、買物という感じで。

小林 昔は、元町へ行つてアイスクリームを食べようかとかソーダー水を飲もうとかといったゆとりというか歩くことを楽しむということがあつたんですね。いいネクタイを買わなきやいけないとか、そんなことじやなかつた。当時のファッショニ性というのはそういうことだつたんですよ。

坂野 なんかもつとゆつたりとしてましたね。そういう自然な落着きというものがどつかに欲しいですね。

小林 元町一番街の今後の企画としては、四、五年先を目標にしてサイドアーケード式のものを計画していく。両サイドを高いアーケードにして、昼間は空が見えるように真中をあけ、雨が降つたら両サイドをあけられるようなものをと考えているんですが……。それと、夜のウインドーを明るくしようじゃないかというキャンペーンをやつています。これは、今度新しく改造されるお店が二軒ほどあります。殺風景なシャツターフをファイルに変えるということで承諾を得ています。おいおいそろくなつて行くと思います。

岸野 センター街は今、大変難しい時なんです。どうして楽しさを出すかということまで仲々考えられませんけれど、せめて夜のショッピングができる店構えにしたいということ、遊びの場を何とかしてとりたいということですね。

坂野 アメリカでは二百年祭といつたらネクタイから何から何までそれで統一していますね。それからヒントを得たんですが、神戸に行かなきや買えないというものを多勢集まる神戸まつりなんかとひつけることで宣伝にもなるし、たとえ実績が上らなくてもあと残るんじ

やないかと思われますね。まあ、一口に物を売るといってもいいですが、相手が満足し、また買いに来たくなるような売り方をするというのは大変難しいことだと思いますので、KFKのメンバーは、そのへんのところを徹底してお互いに切磋琢磨する必要があると思うんです。

渡辺 トアロードは、あのようにならかな坂道になつてますので、パリのシャンゼリゼと似通つたものにできたらなあと思っています。トアロードには變つた街の雰囲気がありますよ、ということでトアロードへの誘致を強めたいと思いますね。昭和の二十五六年頃は、店並みなどもアンバランスで、運営もなかなか難しかつたわけですが、最近では、かなりそれらのことも變つて来て、費用捻出の面でも以前からすると大分違つてるので、高架をはさんで陸橋を作るなどして、お客様への呼びかけを積極的にやつていけたらと願っています。

吉岡 大丸前は一つだけ根本的な問題がかたづけば非常にたくさん夢があるんです。というのは、大丸と大丸

前商店街の間の道路の交通問題なんですが、あの道路の交通を規制して、全部遊歩道にできたら、花だんや緑やベンチなどを置けるし、また大丸前商店街は地形がちょうど島のようになるので、そこだけ浮き上つて見えるような夜の照明を考えたりしているのですが……。大丸前には比較的高級品を置いている店が多いので、そんなふうにしてなるべくたくさんのお客様に見ていただけたらと思ってるわけなんですよ。その他、アーケードも贅否両論ですが、あれも高い所にあれば決して悪くはないと思うので、四階か五階の高さの所に大丸から商店街に真中を自動開閉できるアーチ型のものをかけられれば、その下に広場もでき、それがちょうど三宮と元町の間の中間に位しているので、いろんなつなぎの役目を果たすのではないかと思うんですけど……。ただ根本的に交通問題がありますので、当面、皆さんの協力を得まして何とかその規制を実現させたいと思っています。

(オリジナルホテルにて)

ウシオ工業株

取締役社長 牛尾吉朗
神戸市葺合区浜辺通5丁目2の1
神戸商工貿易センタービル18F
TEL (078) 251-1651(代)

田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作
神戸市葺合区旗塚通6の3の10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

(株)ワールド

会長木口衛
神戸市葺合区八幡通3丁目1の12
TEL (078) 251-5311

カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲岡必三
神戸市生田区三宮町1丁目43番地
TEL (078) 331-3318

(株)ベニヤ

取締役社長 松谷富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 331-5585

モロゾフ株

取締役社長 葛野友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船株

取締役社長 小泉進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル3F
TEL (078) 851-3191

神戸地下街株

さんちかタウン・サンこうべ
神戸市生田区三宮町1丁目1
交通センタービル8F
TEL (078) 391-4024(代)



HISHI'S AKA

キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の企画は以上9社の提供によるものです。

□ある集いその足あと

K・F・S

中原 武志

△デザインルーム・ナカハラ
K・F・S会長



K・F・S理事会風景

K・F・S（コーベ・ファッショニン・ソサエティ）四十九年六月の誕生ですから満一才と九ヶ月の可愛い盛り、といいたいところで、百数名の会員は、神戸のファッション業界、婦人服、紳士服子供服のメーカー、小売、オーダーなどの服飾各界、シューズ、洋菓子、家具、美、理容など、およそファッションと名のつく各業界の指導者、幹部級の方達ばかりで可愛いなどとは、とてもいえませんが、その持っている夢はとても

大きく美しいのです。"神戸の街をファッション都市にしよう"と大きなそして漠然とした目的に賛同してきたのがこのグループです。"ファッション都市化"が過熱していく中で、どのように運動をすれば良いかととまどいましたが、"ファッション都市化は百年の計私達はその捨て石になろう"と、まずは気長に取組んでいる次第です。

現在までに行なった主な事業はファッションフェアへの参加（昨年は事情で不参加）・ファッショバザールへの協力・神戸まつりへの協力・ファッショバンパティの開催（三回）これは会員一般の方の交流会・現代衣服の潮流展へのバースツアーカ・F・S通信の随時発行（月に一回程度）・月刊神戸つ子にK・F・Sのページを二頁設けてキャンペーン活動・月一回以上の理事会・昨秋、婦人会館に於ける"女性のためのファッション講座"の開講（服飾、シューズ、インテリア、洋菓子などの講座で六回）などを行なって参りましたが、メインとなつていきますのは毎月第二水曜日に行っている"K・F・Sマンスリーサロン"ではないかと思います。

前座に会員スピーチとして会員のファッション情報や研究発表があり、続いて有名講師を招いての

講演会があります。その後、懇親会を持つて交友を広めていますがこのK・F・Sマンスリーサロンは、一般の方にも開放していますので（一般の方は一、〇〇〇円）参加して頂きたいと思います。K・F・Sマンスリーサロンの御案内は「神戸つ子」の、K・F・Sのページを御覧下さい。現在、理事会ではマンスリーサロンのより一層の充実に取り組んでおりますし、今春には"ファッショントーク"（女性のための）あるいは"市民のための"を開講予定（四月・五月）です。これらの各種事業を行なうときは、会員でプロジェクトチームを組んで企画、運営されます。

最近「K・F・Sに入会したいが、どのようにすれば入会出来るか」との問合せが事務局によく掛つてくるようになって来たけれどK・F・Sは、神戸市の主催の"神戸ファッション市民大学"の卒業生で結成されたもので（現在三期生までの卒業生約三百五十名の内、百数名加入）あるために一般的の方は加入できないようになっています。今秋開かれる予定の"市民大学"を受講の上、是非、参加して下さい。これだけの人材と交友できるグループは、とても幸せといえるのではないでしょ

経済ポケット ジャーナル



★「神戸キュー・バ経済懇話会」が発足

一月十七日、神戸商工会議所や地元の貿易業界の代表ら十八名による「神戸・キュー・バ親善経済使節団」(団長／宮崎辰雄神戸市長)がキュー・バへ出発、二十七日に帰国した。キュー・バでは、當地の商工会議所はじめ貿易業界の関係者との間で神戸・キュー・バ両国間の今後の貿易拡大について話し合いがもたれた。

その結果、二月三日、神戸商工会議所は「神戸・キュー・バ経済懇話会」の設置を決めた。

神戸—キュー・バ間の貿易では、機械などの工業製品を神戸が輸出し、キュー・バから砂糖、コーヒー豆、冷凍エビなどの一次産品を輸入。キュー・バ船の入港も多く、今年に入つすでに一隻が入港している。一方、神戸市ではキュー

バ領事館を誘致すべく、外務省に働きかけているが、これが実現すれば、わが国初のキュー・バ領事館となる予定。

★輸出促進を目指して「神戸貿易デザイン展」開催

一月二十日から三日間、神戸国際会館五階ホールにて「第20回神戸貿易デザイン展、海外収集見本展」が



展示会場

開かれた(主催／神戸市・神戸トレーダーズ協会)。

今回は神戸市の八社をはじめ、兵庫県、埼玉県、静岡県、岐阜県、滋賀県、鳥取県、岡山県から合計六十

四社が出品したほか、西ドイツ、アイルランド、フィンランド、オーストリア、スウェーデンなどヨーロッパのすぐれたデザイン商品百五十点余りも展示された。

また、二十一日には、同展に出品しているメーカーと神戸トレーダーズ協会員のデザイナーら三十名が、『未来の商品』を探るシンポジウムを開き、二十二日には出品商品のなかから、

優秀商品十点(金賞五、銀賞五)が表彰された。神戸市からは「ますみ工芸」(七宝ペンドント、七宝額絵)が銀賞に選ばれた。

★神戸タワー・サイドホテルがビジネスホテルに

生田区波止場町中突堤入口にある「神戸タワー・サイ

ドホテル」の経営が、二月から神戸市民生活協同組合(理事長／宮崎辰雄神戸市長)に移った。

同ホテルはこれまで株式会社神戸ホテル阪神が経営に当っていたが、経営難のため市民生活協同組合が後を引き受けたもので、客室の料金を現行より引き下げたり、六階の結婚式場を廃し、各種の集会場や宴会場に利用するなど、神戸を訪れる人が気軽に利用できるビジネスホテルに衣替えした。

★帝国酸素神戸本社が移転

帝国酸素株式会社(ジャック・コンセイユ社長)の神戸本社がこのほど移転し、三月一日から業務を開始した。新事務所／郵便番号六五一、葺合区磯辺通二丁目二番十五号、電話(078)二五一—一九四一番

★KOBE オフィスレディ★



黒川 敦子さん(垂水区)
有限会社スギヤ事務センター

朗らかであたたかい感じのひと。仲々のスポーツマンで、スキーは経験8年のベテラン。テニスも好きだが場所をとるのが大変とか。目下、パルモアで英語のレッスン中。週5日、仕事が終わってから通学。2年目になるのが非常に頑張り屋だ。将来は英語を生かして何かやりたいなあ……との夢がある。それと外国旅行。建国二百年祭のアメリカへ行ってみたいなあ…。(県立星陵高校卒業)



きものと細貨

おんがらを

東京	神戸
池袋バルコ店	本部・仕入部
(四階きもの小路)	市街地改造により工事中 昭和五十二年未完成予定
渋谷東急店	さんちか店
日本橋東急店	神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八一三三二一七〇〇
東京都中央区銀座五丁目八一〇 (四階きものコア)	銀座コア店
東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 (五階和装名家街)	東京都中央区銀座五丁目八一〇 (四階きものコア)
東京都中央区日本橋通一丁目九二 (四階和装名家街)	電話〇三一四七七三四〇九(直)
東京都豊島区南池袋一丁目二八一 (四階きもの小路)	電話〇三一九八七〇五六一(直)

MAKE UP WITH ROYAL

魅力アップは これで

世界超一流
ヨーロッパ・エレガンスを代表する
フレームコレクション



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 〔321〕1212代表

三宮店・さんちかタウン 〔391〕1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです

三宮店は第2、第3水曜日がお休みです

三宮店(さんちかタウン)は装いを新たにして、ご来店をお待ちしております。

レーザリアム

諸岡 博熊

（神戸市企画局参事）

明日の文化をめざして、科学と芸術の融合と称せられるレーザー光線と音楽の組み合わせによる映像をドーム状天井に演出するレーザリアムが京都で日本初公開となつた。おそらく本誌が発行されるころ、新聞紙上をにぎわしていることだろう。

これは、レーザー光線を用いて空中に三次元の映像——ホログラフィといわれるもので、被写体にレーザーを投射してその回折光を乾板に記録されたホログラムを、レーザー光線によつて、像を再生したもの。手前に実像、後には虚像が結像し、立体感に富んだ三次元像を得る。

大阪での万博では、ソ連館、英國館、フランス館、三菱未来館で初期のホログラフィが展示されていた。また、このたびの沖縄の海洋博でも、三菱未来館がホログラフィを大々的に展示していた。これらのホログラフィは、静止した状態であるので、レーザリアムでは、動的なカラフルな映像、しかも光の像が中空に立体的に見えるよう、ドーム状の天井スクリーンに投射される。リクリエーション・シートに座った観客は、その映像を浴びるように感じ、音楽に

あわせて緩急自在に変化する映像は、観客の心深く影響を与え、その情緒にまで効果を及ぼすものとなつてゐる。

今から十五年前、レーザー光

線の発生装置がMITで開発され、急速に各方面で応用され、宇宙、天文、物性、原子といった物理学での利用から医学まで実用化されている。

昭和四十八年、ロスアンゼルスにあるグリフィス天文台のプラネタリームドームを利用して、レーザー光線の実に美しい種々の色彩の光線を音楽にあわせ、全く誰にも想像もつかない幻想の立体世界を出現させるレーザリアムが初公

開された。

レーザリアムは約一時間にわたって、七・八曲の音楽にあわせてドームの天井にサイケデリックな色模様が織りなされ、赤、黄、緑、青の四色が立体的に交錯し、観客が音響効果とあいまつて、その映像のなかに包みこまれてしまつたような錯覚に落ち入る。映像の動きは極めて複雑、かつサイケ的で時には投げ網を広げたように、時には真綿を引きのばしたように、立体制的に球面天井を荒れ狂う相様を示す。

このレーザリアムは、目下アメリカで爆發的な人気をよび、サンフランシスコ、ニューヨーク、デンバー、サンディエゴ、マイアミ、トロント、シアトル、アメリカ、カナダをあわせ八カ所のプラネタリウムに設置された。

（注）光とレーザー光線の違い

日本では、日本文化財団が企画して、京都にある近畿放送に、レーザリアムセンターが開設される。日本では、日本文化財団が企画して、京都にある近畿放送に、レーザリアムセンターが開設される。日本では、日本文化財団が企画して、京都にある近畿放送に、レーザリアムセンターが開設される。

（注）光とレーザー光線の違い

図に示すように、物理的特性からいえば、ある意味では、雜音のような光の集團が普通の光——電灯は、スイッチを切るまで一様な光を出し続けているようみえるが、図（一）のように、雜多な光の集團である。ところが、図（二）のように、レーザー光は全体が一つの成分で一定波長で位相が連続している。つまり、無限にひと続きの波動で、人工的に光の純粹な一成分だけを連續してつくり出したものである。

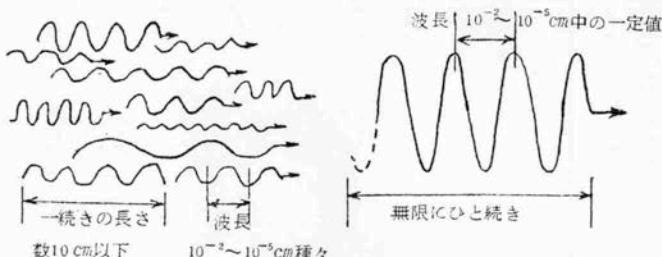


図1. 光の概念図

光とレーザー光の物理的相異を最も明解に表現するのが上の概念図である

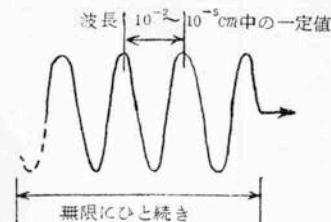


図2. レーザー光の概念図